

## 令和元年度 第2回豊橋市図書館協議会 会議要録

日時	令和元年11月7日（木） 14:30～16:30
場所	豊橋市中央図書館 会議室
委員	出席定数12名 8名出席
事務局	図書館11名 まちなか図書館開館準備室2名
議事	<p><b>議題</b></p> <p>(1) 平成30年度決算、図書購入・蔵書の状況、サービス指標、事業実績について</p> <p><b>報告事項</b></p> <p>(1) 令和元年度図書館利用者アンケート集計結果について</p> <p>(2) 羽田八幡宮文庫旧蔵資料書翰・宸翰（羽田八幡宮所蔵）について</p>
配付資料	<p><b>議題</b></p> <p>(1) 平成30年度決算、図書購入・蔵書の状況、サービス指標、事業実績について</p> <p><b>報告事項</b></p> <p>(1) 令和元年度図書館利用者アンケート集計結果について</p> <p>(2) 羽田八幡宮文庫旧蔵資料書翰・宸翰（羽田八幡宮所蔵）について</p>

### <議事概要>

#### 議題

- (1) 平成30年度決算、図書購入・蔵書の状況、サービス指標、事業実績について  
(事務局)

事務局より、配付資料に基づき説明。各委員より以下の意見・質問があった。

### <質疑応答>

#### 【委員】

予算残額の要因と次年度予算への影響について

#### (事務局)

予算残額の主なものは人件費であり、人件費は多少の余裕をみて計上しているため残額がでる。また、予算残額は、効率的な運営努力もあってのことであり、悪いことではなく、次年度の予算に影響はない。

### 【委員】

外国人労働者が増加していることもあり、外国籍の子ども達が増えている。子ども読書活動の推進について、外国籍の子に関する予算をもっと増やしてほしい。今後も読書活動の推進について重点的に考えてほしい。

### （事務局）

外国籍の子ども達への読書サポートも課題の一つと認識している。30年度から外国籍の子ども達を対象にiPadで絵本を作るワークショップを開催している。図書館の利用にお金がかかると思っている外国籍の方もいると聞いている。ポルトガル語、タガログ語の資料も多く所蔵しており、図書館の存在、利用方法について知ってもらおう等、PRに努めている。

### 【委員】

外国籍の子ども豊橋市でしっかりと育ち、納税もできる一市民となってほしい。また、社会貢献できる大人になってほしい。学校の授業についていけず、学校に行けなくなっている子どもも多い。外国籍の子ども達を支える取り組みを図書館でも行ってほしい。

### 【委員】

図書資料の購入費やイベント関係を減らすのは難しいと思うし、デジタル化もこれからの目玉になる。羽田八幡宮文庫も注目を集めている。これからの担う世代の育成の面からも子ども読書活動も推進してほしい。人口も減り税収も減っている中で、蔵書冊数なども、市民一人当りに換算すると減っていない。図書館のアイデアと頑張りに期待する。

### （事務局）

情報発信をこまめに行い、市役所の中でも図書館の事業をPRして予算を獲得していく。市民に一番身近な公共施設として図書館の役割は今後ますます重要になり、まちなか図書館（仮称）の開館もあり、現在の事業に満足せず予算を確保するよう努め、図書館の底上げをしていく。

### 【委員】

昨日、磯辺小学校の学習指導の研究発表会があった。外国籍の子ども達もいるが、先生達が頑張って子ども達と絵本をつなぐ学習づくりを行なっている。授業の中で本の良さ、調べる楽しさを伝えていた。図書館利用の重点化については国からも言われている。担任の先生だけではなく、学校図書館司書の協力も得て学びの力がついている。学校での読書活動、図書館利用の促進にもっと予算をまわすことができないか、市全体として考えてほしい。

**(事務局)**

図書館職員が研究発表会に行かせて頂き、先生、授業・学習支援センター、学校図書館司書、図書館司書、みんなで授業を良いものにしようということで、図書館の資料を有効に使って頂いており、大変参考になったと聞いている。大人になってから読書を勧めてもそれぞれのライフスタイルもあり難しい。子ども時代から本を利用してもらうことで、知識が広がる楽しさを知ってほしい。そのためにも、学校は大切な場所だと考えており、学校で図書館の資料を活用してもらえよう、先生方にアピールをしていきたい。

**【委員】**

先生方への周知は進んでいるし、システムも構築されている。学校図書館司書を増やしてほしい。豊橋市の子ども達の学校図書館の貸し出し冊数は県下で一位であり、図書館にはもっと、本と子ども達をつなげられる役割を担ってほしい。

**【委員】**

資料購入費の予算が27年度6,200万円に対し31年度は5,000万と約8割に減っているが、図書館予算の全体が8割に減り、資料購入費も8割に減っているということか。

**(事務局)**

予算額については、市全体の予算編成方針により決められている。図書館全体の予算も減少しており、資料購入費に限ったことではない。平成27年度、28年度は大清水図書館が開館して間もない時期でもあり、資料購入費が多かったが、年々減少傾向にある。

**【委員】**

事業の企画はどのような方達が、どのように行っているのか。

**(事務局)**

基本的には図書館の中で、図書館の職員が行っている。また、図書館に協力して頂いているボランティア団体の方達と相談して取り組んでいるものもある。

**【委員】**

市民から企画の提案を行う機会はないのか。

**(事務局)**

現在はない。イベント、資料展の企画も職員がアイデアを出している。

**【委員】**

リサイクル本のフェアは継続して行ってほしい。恒例になっている行事に加えて、新しい行事もあれば図書館への注目度もあがるのではないかと。市民の中には、自分も何かを企画したい気持ちがある人もいます。地味なものでもいいので、提案する機会だけでもあれば良いと思う。

**（事務局）**

これからの図書館では本の貸し出しだけではなく、「いつ来てもイベントをやっている」というイメージを持たれる施設にしたい。生活に関係する講座やセミナーや郷土に関するイベントなどを色々な団体や人と連携して、図書館を舞台として使って頂き、イベントを実施していきたい。

**【委員】**

例えば、防災やSDGSなど「言葉としては聞くけど、よく分からないこと」がある。図書館にはその資料が揃っている。そのPRも含めて、専門家の話を聞ける機会を設けると、本のある場所という特性を生かして、知るきっかけをみなさんに提供できるのではないかと。

**（事務局）**

以前、動物園とのんほいパーク盛り上げ隊の方達と連携したイベントを図書館で行った際、関連する本の紹介や展示を行った。どんなテーマも本とつながる。市民の方が寄りたくなる、交流できる場所になれるように考えている。

**【委員】**

イベント、展示会は毎年内容を変えているのか。

**（事務局）**

その年だけのものも、例年継続して行っているものもある。

**【委員】**

最終的に利用者が増えればよいと思うが、イベントの費用対効果はどうか。それが見えるように指標化してほしい。そのような指標の方が財政当局にも説得力があるのではないかと。また、サービス指標については、他の同規模の自治体と比べてどのような状況なのかも指標化してはどうか。

大学の図書館を改修した際、1階には本を置かず、フリーなスペースにしたところ利用者は3倍に増えた。図書館の工夫につながればと思う。

**(事務局)**

予算が確保できないのは、「これがやりたい」「市民にアピールしたい」と説得できる内容ではないということ。

中央図書館は老朽化が進んでおり、座って本を読める場所も不足している。職員が知恵を出し合い、イスの並べ方や机を増やすなどの工夫は続けている。少しでも図書館でくつろげる雰囲気をだしていきたい。

---

**報告事項**

**(1) 令和元年度図書館利用者アンケート集計結果について**

事務局より、配付資料に基づき説明。各委員より以下の意見・質問があった。

**<質疑応答>**

**【委員】**

P10の「8割の方が満足」については、スタッフの方の頑張りの結果ではないか。P2の年齢をみると、60歳、70歳以上の方が多いのかと思っていたが、70歳以上が少ない。公共交通機関がないとやはり図書館を利用しづらいのではないか。

**【委員】**

アンケートは毎年、実施しているのか。また業務に活かしているのか。

**(事務局)**

毎年実施している。館内の研修会の中で、職員全員に周知し業務改善に活かしている。

**(2) 羽田八幡宮文庫旧蔵資料書翰・宸翰（羽田八幡宮所蔵）について**

事務局より、配付資料に基づき説明。各委員より以下の意見・質問があった。

**<質疑応答>**

**【委員】**

文化財に指定された際にイベントや企画展を行うのか。

**(事務局)**

羽田八幡宮文庫自体の文化財指定を行う予定。来年の夏頃に指定が決まれば公開を考えたい。

**【委員】**

羽田八幡宮にあったものか。図書館にあったものか。

**(事務局)**

羽田八幡宮の神社の書物として所蔵されていたもの。